

キャリアラダー自己チェックの振り返りシート

記入例

*項目は「埼玉県自治体保健師のキャリアラダー（専門的能力に係るキャリアラダー）自己チェックリスト」を参照のこと

特に、「A:できる」と評価した項目に着目し、チェックリスト「コメント欄」の伝えたいこと（力を入れたこと）に記載した内容の詳細を記載する。

私の具体的実践 （担当した業務や住民とのかかわりの場面）	実践で達成できたこと・気づき	活動領域・ キャリアレベル
- 身近に相談者がいない外国人の子育て世帯への関わりにおいて、家庭の状況や困りごとを整理し、地区内の外国人コミュニティや利用可能なサービスにつながるよう、関係者と調整した。 - 介護予防のための通いの場で、参加者同士の交流を大切にしながら、参加者が互いに声をかけ合い、住民が主体となって活動を継続できるよう支援した。 - 台風による大雨で川が氾濫した場合の避難が困難だという話を住民から聞き、一人暮らしの高齢者や外国人など、避難に支援が必要な住民の状況を調査し、今後の防災活動で取り組むべき地域の課題として整理した。 - 若年層を対象とした HIV・性感染症予防対策として、学生ボランティアと協力し、啓発活動や即日検査イベントを企画・実施した。 - 埼玉県健康福祉研究発表会で、がん検診受診率向上キャンペーンとして行った取り組みについて成果を整理して発表した。	- 地区にどのような活動があるかを調べるなかで、外国人コミュニティや教会で行われている多世代交流サロン、通訳団体の活動を知ることができた。また、社会福祉協議会に協力を依頼し、対象者が参加・利用できるよう各団体へつなぐことができ、私自身も各団体メンバーと顔の見える関係を築くことができた。 - 個々の参加者への関わりを通して、参加者同士の声かけや交流が活動の継続を支えていることに気づき、集団の中にあるつながりを活かして支援することの大切さを学んだ。 - 災害時に特に支援が必要な人がいることを改めて認識し、それぞれの生活状況や必要な支援を把握することができた。さらに、日頃から問題意識を持って住民と関わることで、潜在的な課題にも目を向け、地域の課題として捉えながら、予防的な対応を考えていくことが大切だと学んだ。 - 若年層の関心の低さという課題に対して、学生ボランティアと一緒に、若者に伝わりやすい周知媒体を作成することでアプローチを工夫することができた。今後も若い世代の意見を取り入れながら活動を継続し、意識の変化や受検行動への影響を評価していく視点を持つことができた。 - がんの早期発見・早期治療を目指した取り組みを振り返り評価する中で、事業を継続する重要性を改めて認識することができた。また、対象に応じた取り組みの工夫が必要であることに気づき、評価の大切さを実感することができた。	1-1：個人及び家族への支援（A-3） 1-2：集団への支援（A-2） 2-1：地域診断・地区活動（A-3） 3-1：事業化・施策化（A-2） 5-1：PDCAサイクルに基づく事業・施策評価（A-2） 6：保健師の活動基盤（A-3）